備前焼の歴史

カテゴリ ： 備前焼マメ知識
投稿者： Webmaster 掲載日: 2006-7-30

備前焼は、瀬戸・常滑・丹波・信楽・越前と共に日本を代表する六古窯の一つとして、人々に愛されています。産地の地名をとって「伊部焼」とも呼ばれています。

備前焼の歴史は古く、はるか昔の古墳時代に須恵器を作っていた陶工たちが平安時代から鎌倉時代初期にかけて、より実用的で耐久性を持つ日用雑器を作り出したのがはじまりと言われています。

備前焼の魅力は飾り気のない素朴さにあります。釉薬を使わない渋い焼き上がりは、やがて堺、京都の茶人に認められるようになり、桃山時代には茶器の名品が数多く焼かれたそうです。

そして現代に至るまで苦難の時代を乗り越えながら、備前焼は「製品」から「作品」へと、新たな芸術の境地が切り開かれてきました。

今日までの約一千年の歴史の中で、備前の街並の窯から煙の昇らなかった日は一日たりともなく、金重陶陽、藤原啓、山本陶秀、藤原雄、伊勢崎淳の5人の人間国宝が輩出されました。

土と炎と人の出会いによって生み出される備前焼の風合は、約1300度もの高温で2週間も焚き続けられる窯の中で創り出されます。現代社会で失われゆく自然と人間の心を思い出させてくれるような、神秘的でぬくもりのある素朴な美しさは、数多くの人々に感動を与えます。

備前焼の愛好者は広く海外にまで及んでいます。他に例を見ない長い歴史と伝統、そして無限とも言える魅力をしっかりと受け継ぐべく、今日も300人余りの優秀な作家・陶工たちが備前の地に窯を構え、素晴しい作品を数多く世に送り出し続けています。